

## 委員会だより

<3月5日(日) 11名出席>

### 【1】財務報告：00年2月度決算報告(詳細略)

- ◆一般会計：神父様に特別献金¥80,000を頂いた。信徒総会他でお願いしているが、まだ月定献金の動きは僅か。
- ◆建設会計：神父様に特別献金¥600,000を頂いた。トイレ修理¥106,000を支出。

### 【2】議題：

#### ◆4月9日の司教様を迎えての堅信式：

- ◆ミサ時間：10時とし、パーティは11時半ころスタート。戸塚教会(既に済み)は持寄り形式だった由(位田さん)。予算は考えてあり、昼食パーティは出来る(甲斐さん)。(注：ご復活のパーティは簡単にティーパーティとする前提、予算額は(司教様への謝礼を含めて)13万円。)持寄りはたいへんなので、業者に頼む方向で考える。細目は婦人会、壮年会で考える。(壮年会はコーヒー?)場所はご聖堂で、人数は100名規模を想定して計画する。

#### ◆巡礼の件…石井さんの報告

2月20日に第5地区宣教委員会「聖母の園 巡礼」企画検討委員会が開催された(第1回目の会合)。第5地区共同の巡礼地として「聖母の園」が決まっているが、そこで行われるイベントについての議論が行われた。

- (1)場所は聖堂でやる。スペースの問題は無し。
- (2)日取は10/14か10/28のいずれか。司教参加可能か否かを戸塚教会の桜井さんが調べる。
- (3)とくに子供たちと老人を対象としたイベントとする。
- (4)役割分担を今後決めていく。

上記に関し次回(5/7@大船)迄に、中和田教会としてこの巡礼のイベントに何が協力出来るか?考えねばならない。

- ◆(石井さんが会合で感じたこととして)司祭数減少に伴い、将来は複数の教会を複数の司祭が担当する時代が来るので、もっと他の教会との交流を深めさせる意図も感じられる。
- ◆これからの教会を担う若い人たちに、巡礼を通して参加してもらい、イベントもこれに即したものにすべき。
- ◆規模が不明だとういうイベントかはっきりしないので、「協力の姿勢」だけまづは表明し、細目はこれからとする。
- ◆石井さんから、他の教会と足並みを揃えるためにも(宣教委員とは別に)誰か専任者を決められないか、との要請に対しては、壮年会、婦人会、青年層からそれぞれ1名出す方向で次回の5/7会合までに決めることとした。

#### ◆献金増額の件(甲斐さん提案)：

- 「献金額を増やすことは、3月広報でお願いした通りだが、これに加えて「信者を増やす」方策を考えたい。」これに対する意見として…
- ◆要理の指導すら満足に出来ておらず、逆に教会を変えようかと考えている人もいる。
  - ◆子供が、毎週他の教会に行っている。神父様が若い人たちの指導に力を入れている。
  - ◆「いるか」の19名を何とか育てたい、盛り上げたい。神父様にも協力をお願いしたい。………
- 1回や2回の議論で方向付けが出来る問題では無く、継続審議事項とする。

## 壮年会だより

<3月19日(日) 11名出席>

- ◆今や中和田教会の希望の星となられた小谷さんが、先頃アマチュアハーモニカ演奏部門の日本一を称える表彰式の席でご褒美として受領されたシャンパンをご寄贈下さいましたので、全員でお祝いの乾杯を挙げました。

◆4月9日の新しい司教様をお迎えしての堅信式と祝賀パーティについて、壮年会としての取り組みを確認。

- (1)式後、立食パーティーの会場設置。
- (2)コーヒー、紅茶の提供(いわば出張サロン)。セルフサービスでお願いしたい。

◆4月の聖書朗読者決定。4/2:井上さん、4/23:小野寺さん

#### ◆確認事項

- (1)春の大掃除 4月8日(土)午前10時から。
- (2)堅信式ごミサ 4月9日(日)午前10時から。

#### ◆その他(意見)

- (1)壮年会が毎年のように草刈りしている教会裏手の空き地を、土地所有者のご好意で、暫くの間畑作業してもよいとお許しがあったそうです。婦人会の有志の方が作業を始めました。「教会菜園」です。皆さん、お手伝いをお願いします。(福島さん)
- (2)献金増額計画を推し進める中で浮上してきた問題として信者の数が挙げられる。限られた信者を対象にした献金増額計画には限界があるのではないか。視点を広げ、新しい信者の拡大と埋没信者の掘り起こしを図るべきと考える。この祈りにも似た悲願を如何に遂行するか。壮年会としても大変難しいテーマであるが、解決に向かって少しずつではあるが前進し、共同体の一員として責任を果たしたい。(小野寺さん)

#### ◆お知らせ 山中家葬儀お手伝いについて

泉区和泉町のパウロ山中健三殿の帰天が、本日のミサで神父様から伝えられました。長く病氣療養中のこととて、壮年会に入会できずのままでした。ご遺族の意向を受け、壮年会もお手伝いすることになりました。

## 婦人会だより

<3月19日(日) 27名出席>

- ◆聖体のマリア 美底 真理安さん 男児御誕生
- ◆山中 嘉子さんの御主人 パウロ山中 健三さん御逝去
- ◆テレジア 岩淵 洋子さん御回復退院
- ◆新口語訳(聖公会 ローマカトリック共通)主の祈りで、お祈り

#### ◆委員会報告

##### ◆堅信式 復活祭について

- ◆4月9日の堅信式(約100人分)サンドイッチ、赤飯、オードブル、フルーツなど婦人会で、用意することに、決定。
- ◆4月23日復活祭パーティーは予算の都合上持ち寄り

##### ◆遠足 5月17日(水)9時30分集合 JR戸塚駅下の改札口

- ◆昼食後自由解散
- ◆場所 澤田美喜記念館 大磯駅前
- ◆県立大磯城山公園(茶室(城山庵)、大磯町郷土資料館)
- ◆大磯駅より二宮方面行きバス10分
- ◆費用その他 交通費1300円前後、お弁当持参
- ◆婦人会の方に限らず、振るって、ご参加ください。

次回例会は4月16日(日)、次回当番はC地区です。

### ミサ 当番表 (2000年4、5月)

月/日	主日	朗読、奉納	オルガン
4/2	四旬節第四主日	壮年会	大宮
4/9	四旬節第五主日	青年会	美底
4/16	受難の主日	婦人会C地区	岩淵
4/23	復活の主日	壮年会	森田
4/30	復活節第二主日	婦人会C地区	大宮
5/7	復活節第三主日	壮年会	美底
5/14	復活節第四主日	青年会	岩淵
5/21	復活節第五主日	婦人会D地区	森田
5/28	復活節第六主日	壮年会	大宮

当番の方は10分前には集合して下さい。ご都合の悪い方は典礼委員(萩原氏:TEL 802-6258)迄お申し出下さい。

## 広報 ながわだ

第257号

今月の予定

- 委員会 4月 2日
- 堅信式 4月 9日
- 枝の主日 4月 16日
- 復活の主日 4月 23日
- レジオ 4月 14、21、28日



2000年 4月号

中和田カトリック教会  
広報委員会発行  
泉区中田北1丁目9-1  
Tel. (045) 803-6141  
平成12年4月2日



## いろいろなこと③

山崎 正俊



最澄さんと空海さんとは、仲がよくなかったのではないかと、栗田さんの著書によってそう思ったのです。世間の評判がそうだったようです。同じ時代に前後して、お隣の国に遊学しておられるのですが、その日時はずれとか経験が違ったこともあったせいで、京都でのこととか、ご本人達の性格、まわりの人たちとの出入りや関係の濃淡などが、あまりにも別なものだったのでしょう。

この頃、一遍さんのことなど、いくらか知ってみると、この上人さんの幼い日の生活など、あまりにも変わっており、空海さんと同じ四国の出身でありながら、高野山の立場もあがっていたこともあって、こちらは、なんの対立もなかったようです。

あの時代は、各宗派のお家の事情に込み入りかた、力関係の争いがあった、怪しげな権力欲と、その内情への関与の厳しさから、困ったこともありすぎたのです。

一遍さんは、僧位もあつたのに、父の地位から、武士でもあつたのです。それで、父の死後は、そのあとを継いで家庭を持つことになっても、そのわずらわしさにあきれて、この世を捨て、家庭を離れ、ついには、遊行をはじめ、捨て聖(ステヒジリ)といわれるような生き方を選んでしまわれる。

法然さんは、その弟子が妻を持つことを黙認されているので、しばらくは、子弟ともども、京都から辺境へ追放されたり、僧籍をとりあげられたりするのです。仏教では戒律で禁じられているのですからというので、そのような罰があるのです。後年には、僧侶も家庭を構えることが、国権力によって大目に見られるようになります。これが「時宗」になると、何のかかわりもないように、ですが、この法然さんの宗派を離れるなど考えてもいないのに、何も彼も捨て去ることを掟として、厳しく守ろうと、「捨て聖」などと称賛されるほどになられ、弟子として後を継ぐ者があつて、宗規がゆるめられたのか、一遍さんとはすこし異なっているかをアイマイにして、御開山にまつりあげられ、通称としてか、「遊行寺(ユギョウジ)」が出来た。藤沢の「藤沢山無量光院聖浄光寺(トウタクサンムリョウコウインショウジョウコウジ)」というのがいまは御本山。栗田勇「一遍上人——旅の思索者」(新潮社刊)を読みかえすことになり、感動を深くしているところです。有難いことです。

一遍さんが方向を見付けられたのかと言われ、熊野修験に続くほどの、四国の秘境「菅生(スゴウ)の岩屋」での日々を、「聖画(ヒジリエ)」に見ながら、その跡を追い、五十歳にして、この世を後になさるのを思い描くと、念仏に生きる者としての素直さに打たれ、家の宗旨とはずれることを気にすることなく、「踊り念仏」に徹する者に、同感したくなるのです。——これが、幼い日に身についた「心の動き」。私の、キリストのゴルゴダの丘への躍動にちがいない。

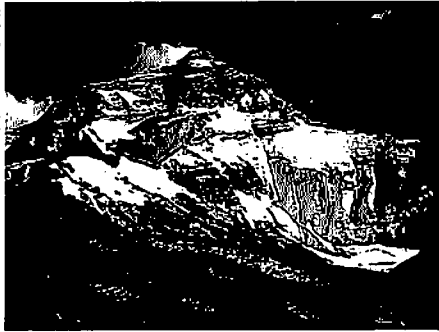
——仏教は東へ北へ移り、まわりのなにかが加わり、日本でも別のものが接ぎ木され、同化され、発展し、ここの風土に根付き、染み込み、有難い様相。その良し悪しを問わず。その生き残り策は、キリストの現存に支えられ、偉大な奇蹟をもたらす。

# カナパタールに登って (その1)

山田 孝信

65歳の定年を迎えるにあたり、なにか思い出に残る事をしたいと考えていたところ、山の仲間からネパールのカナパタール(5545m)に登らないかとの話があったのは、一昨年(98年)のことだった。

カナパタールは、エベレストに登る人が必ず通るエベレスト街道の途中にあり、またエベレストに登るためのベースキャンプ(5300m)のすぐ手前である。前年(97年)ネパールのプーンヒル(3100m)に登った時に、エベレスト遊覧飛行に乗って空からエベレストを眺めたが、残念ながらあまりよく見えなかった。カナパタールからはすぐ近くにエベレストが見られるとのことである。



カナパタールの話があつてから、是非登りたいと思う反面、ほんとうに登れるだろうか?と悩み悩む。第一に65歳という年齢、体力に対する不安もある。第二に高度の問題である。高山病で死亡した話をよく聞き、私にとって5500mとは未知の世界である。日程表によると少しづつ高度をあげ、更に高度順応日を設けて体を高度に慣らすように組まれているので大丈夫かな?とも思ったりする。第三に22日間と長期の日程である。会社を退職した後なので休暇の心配はないが、22日のうち14日間はテント生活である。今までの山行きでは縦走でも5~6日間程度であった。いろいろと思い悩んだ挙句、思い切って参加することに決め、準備に入った。

まず出来るだけ多くの高い山に登り、体力の強化を心がけた。6月にマレーシアのキナバル山、7月は北海道の大雪山~トムラウシ山縦走、芦別岳、夕張岳、8月南アルプス荒川三山~赤石岳縦走、荒島岳白山、9月空木岳~南越百山縦走、戸隠山高妻山に登った。高度順化も兼ねて富士山にも登る予定を立てていたが、日程の都合上行けなかった。

次に高山病対策である。第一に大切なことは高い山に登り体を慣らすことである。先に述べたキナバル山(4100m)に登った時にはあまり高山病の症状が出なかったのでひとまず安心した。第二に高山病の研究である。「登山の医学」や、今度のトレッキングでの旅行社アドベンチャーロード作成の「高山病について」等を読み研究した。注意すべき事項をまとめると、①ゆっくりマイペースで登る ②水分をたくさんとって尿をどんどん排出する。一日4リットル以上の水分補給が必要(食事を含む) ③酒、タバコは厳禁。酒は脱水症を加速させるし、タバコは呼吸器系に悪い 等々である。

今回のトレッキングは期間が長いこともあり、参加者は男性2名、女性2名、計4名となった。私を除いた3人については50代前半、シルバー登山隊の結成である。また全員ネパールの経験者でもある。ネパールトレッキングには二通りの方法があり、①ロッジ泊まりで食事はロッジです。この場合ガイド兼ポーターとして現地人を雇うことが多い。②テント泊まりでシェルパ、コック、ポーターを雇う。我々のパーティーは後者のテント泊まりで、旅行社が全部手配してくれる。今回のスタッフはサーダー(シェルパ頭)、シェルパ、コック、ポーターと荷物運びの牛とで9人+2頭の大編成となった。

テント泊まりはポーターが荷物を担いでくれるので、自分では雨具防寒具水筒程度の荷物を担げばよい。食事はコックさんが日本人に合う食事を作ってくれるので心配はない。至れり尽せりの大名旅行である。今回のツアーの日程はネパールに詳しい旅行社アドベンチャーロードが組んでくれたもので、一日6~7時間の歩行と高度順化日を適当に入れたゆっくとりしたものである。あと心配なのは高山病だけである。先に研究した高山病対策をしっかり守っていれば、カナパタールの頂上を踏めるのではないかと密かに期待する。

10月のカトマンズは気温が30℃程度で日本の真夏の気候である。一方山は高度が上がるとだんだん寒くなる。5000mでは零下の気温である。着るものは真夏から真冬の服装まで必要になる。着替えのことを考えると荷物はどんどん増えてザックに入りきらない程の荷物になった。着替えを減らしたり、出来るだけ兼用で使えるように工夫してなんとかザックに収めた。準備完了いよいよ出発である。



10月18日に羽田空港より関西空港に行き、そこからネパールに発つ予定だったが、あいにく台風10号の接近により羽田空港からの予定している便が飛ばさずかわからないとのことで、急ぎよ一日日程を繰り上げて17日に横浜発の夜行バスで関西空港に向かったが無事に到着。

10/18 ローヤルネパール航空の上海経由カトマンズ直行便に乗る。カトマンズは二度目なので気持ちに余裕がある。

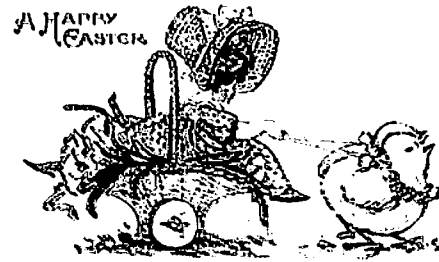
10/19 トレッキングパーミット取得のためカトマンズに滞在。市内観光をする。

10/20 カトマンズよりルクラ(2840m)に飛ぶ。ここからいよいよトレッキングの出発である。今日はパクディン(2652m)までの下りなのであまり不安はない。途中雨に降られたが無事到着。

(次号に続く)

## 自然にやさしいリサイクル

環境を考える会 清尾 史子



### 横浜教区 典礼研修会に参加して 位田 裕子

2月11日、藤沢教会で行なわれた標記研修会に参加しました。今回で19回目を迎え、「典礼暦年を生きる」のテーマのもと、カンペンハウド師とカーテン師による講話とミサがありました。聖堂には補助椅子が据えられるほど大勢が集まりました。

カトリック信仰の中心である典礼を「時間(とき)」の流れの中で捉え、イスラエルに始まって現在に至るまでの「時間」の考え方について話されました。降誕節に始まり、主日や各種の記念日、祝日を経て再び主の降誕の日にもどる典礼暦年の中で、最も中心となるのが「主の復活」。特にいま四旬節復活祭を前にして、人間の歴史の中心はイエスの受難、死、復活であることが強調されました。四旬節にこのことを静かに黙想しながら、時を待つことを通して主の復活への希望と喜びを大きくして復活祭を迎えたいものです。

今私たちは、聖霊によって生かされ、救いの体験をしながら生活しています。常に私たちの生活の中心は何かを考えながら生きることの大切さを講話の中から知らされました。

この研修会に参加して、今まで気づかずにいた言葉の恵みを受け、心が満たされました。来年の研修会には、是非多くの方々のご参加を願っています。

### ハーモニカ 楽しく生きよと 支えてくれた70年 小谷 徳爾

お蔭様で、まだ夢を見ているようです。「アマチュア ハロー クラシック コンクール」で、私は最高の『新井先生の賞』と『オーディエンス(audience)賞』をダブル受賞させていただきました。ただ、ただ、うれしく、「ありがとうございます」のひとことです。

日本が世界に誇るピアニスト、園田高弘様も、70歳、ある記事に、「安全第一に演奏すると、スコア(楽譜)の難所の前からテンポをおとし、逃げる演奏をする高齢の演奏家がおるが、失敗を恐れず、あえて挑戦するのが"舞台芸術の正道である"。いつまでも生々しく、それが出来ないなら辞めた方がまし」と。

この言葉をしっかりと胸に、私は3月11日、銀座王子ホール、320余名の方々が見守るステージに立ちました。第5番目でした。一生懸命に、楽譜が、ここpp(ピアノ)、そこff(フォルテ)、フェルマータだと教えてくれ、終曲近く9分30秒、ヨハン・シュトラウスの「美しく青きドナウ」。スボラは太陽のように、「fff(フォルテッシモ)」の割れるような拍手を頂いた時、「あ!終わった」、私のすべてが脱力いたしました。

### お知らせ

婦天  
パウロ山中健三様 3月19日

大掃除  
4月8日(土) am. 10時より

堅信式  
4月9日(日) am. 10時より  
この後パーティー

聖週間  
4月20日 聖木曜日  
4月21日 聖金曜日  
4月22日 聖土曜日  
御ミサ pm. 8時

復活の主日  
4月23日(日) am. 10時より  
この後持ち寄りパーティー

